

平成22年度後志総合振興局管内観光入込客数の概要

1 調査基本事項

(1) 調査内容

後志管内全20市町村の調査結果を基に市町村毎の延べ人数で集計。

(2) 調査対象期間

平成22年4月1日～平成23年3月31日

(3) 調査項目

- ①入込客総数 ②道外客・道内客（総数内訳） ③日帰り客・宿泊客（総数内訳）
④宿泊客延数

2 調査結果概要

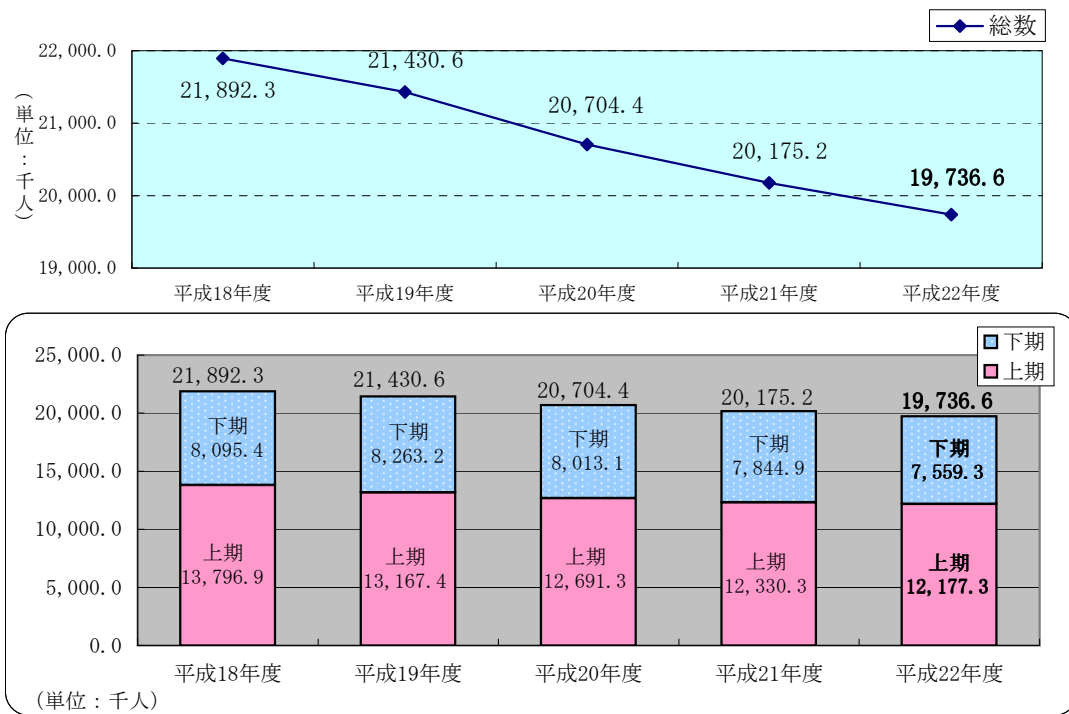
入込客数は、前年と比較し2.2%減、約44万人減少で、約1,974万人であった。
前年の世界的な景気の低迷からは回復傾向にあったが、大雨による交通障害や、週末の悪天候などの天候不順による入込の減少、東日本大震災の影響による3月の観光入込客数の減などが、平成22年度の減少の要因と考えられる。

(1) 主な増減理由

- (増) 融雪時期の遅れに伴う4～5月のスキー客増
(増) 夏期の猛暑による海水浴客の増
(減) 天候不順の影響による観光入込客の減
(減) 東日本大震災や原子力発電所の事故の影響による3月の観光入込客の減

(2) 観光入込客数の過去5年間の推移

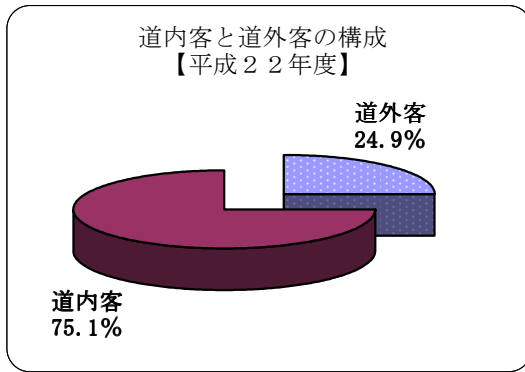
観光入込客数



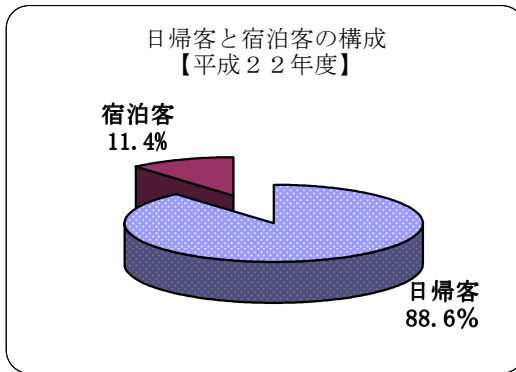
(単位：千人)

	入込客総数	総数内訳		総数内訳		宿泊客延数
		道外客	道内客	日帰り客	宿泊客	
H22年度	19,736.6	4,913.0	14,823.6	17,494.9	2,241.7	2,721.1
H21年度	20,175.2	4,851.1	15,324.1	17,776.4	2,398.8	2,786.3
対前年比	97.8%	101.3%	96.7%	98.4%	93.5%	97.7%
構成比(H22)	100.0%	24.9%	75.1%	88.6%	11.4%	
構成比(H21)	100.0%	24.0%	76.0%	88.1%	11.9%	

(3) 道外客・道内客構成比率、宿泊客・日帰客構成比率



・道内客と道外客の構成は、道内客が14,823.6千人で全体の75.1%、道外客が4,913.0千人、24.9%と道内からの入込が多くなっている。

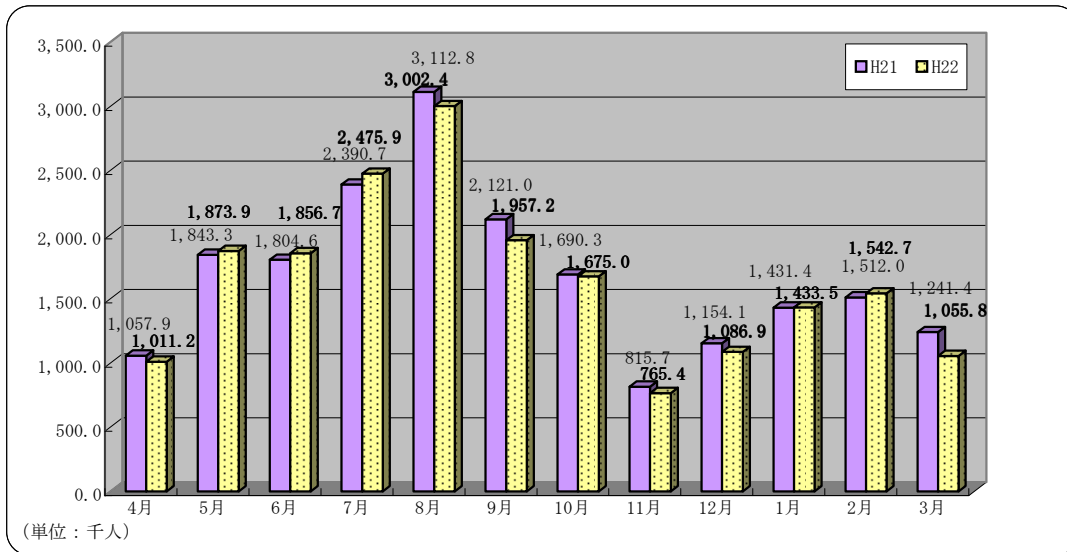


・日帰客と宿泊客の構成は、日帰客が17,494.9千人で全体の88.6%、宿泊客が2,241.7千人、11.4%と約9割が日帰り客となっている。

(4) 月毎の推移

(単位：千人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H22	1,011.2	1,873.9	1,856.7	2,475.9	3,002.4	1,957.2	1,675.0	765.4	1,086.9	1,433.5	1,542.7	1,055.8
H21	1,057.9	1,843.3	1,804.6	2,390.7	3,112.8	2,121.0	1,690.3	815.7	1,154.1	1,431.4	1,512.0	1,241.4
対前年比	95.6%	101.7%	102.9%	103.6%	96.5%	92.3%	99.1%	93.8%	94.2%	100.1%	102.0%	85.0%

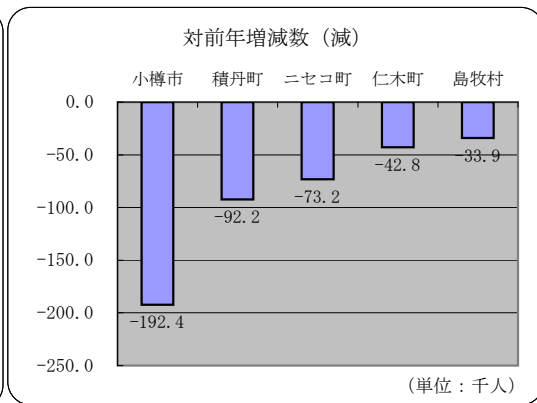
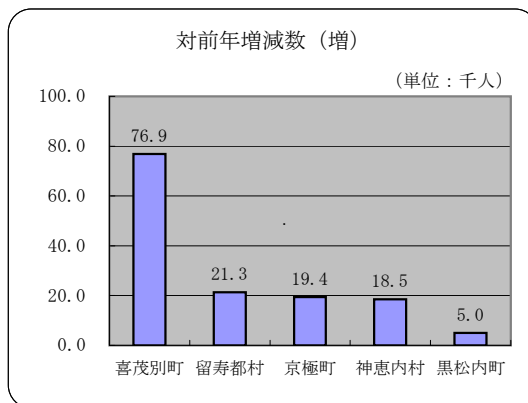
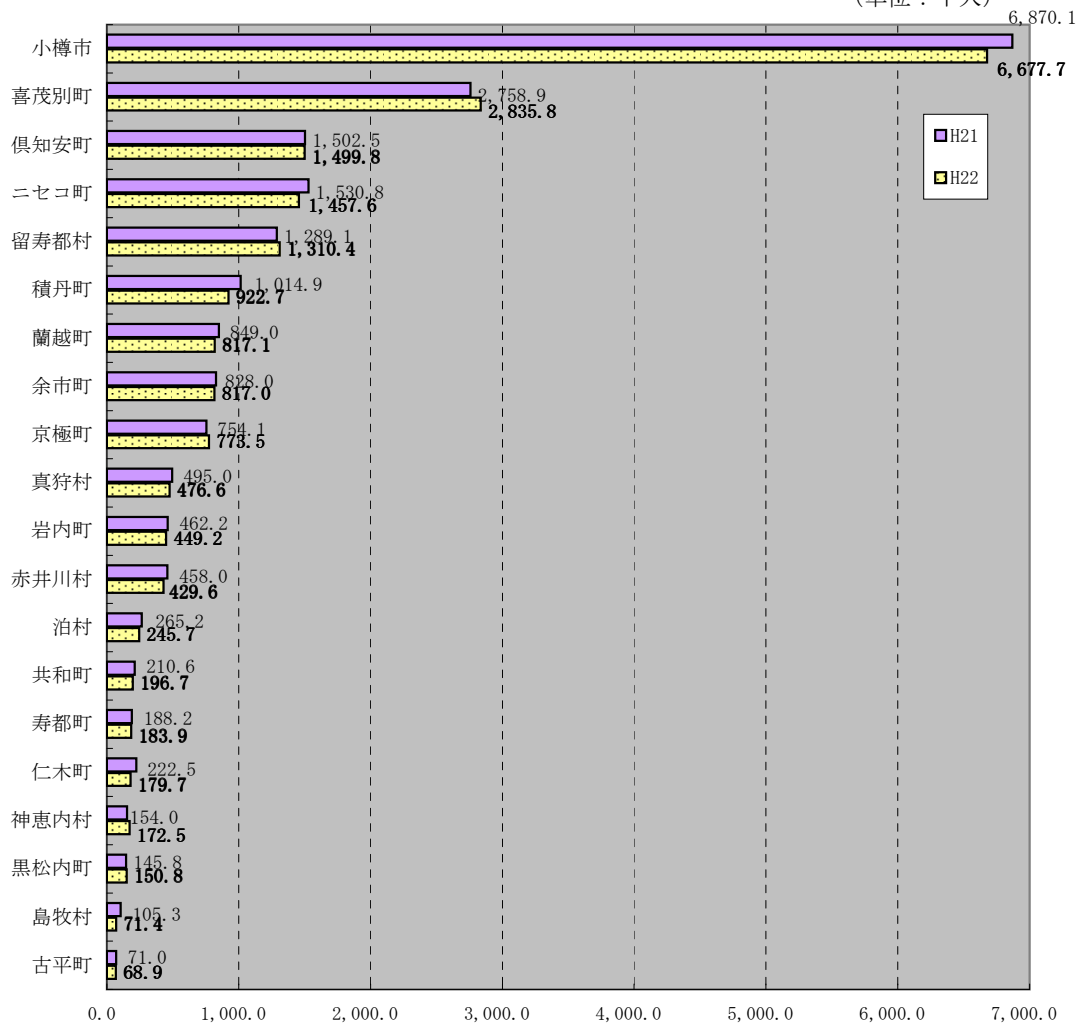


- ・月別の構成では、8月が3,002.4千人と最も多く、全体の15.2%を占めている。
- ・次いで7月が2,475.9千人、12.5%と続き、以下9月、5月、6月の順となっている。
- ・上期(4月～9月)の前年同月比較では、比較的天候に恵まれた5月から7月までは前年を上回ったものの、大雨被害の影響により8月以降は前年度を下回っている。
- ・下期(10月～3月)の前年同月比較では、例年に比べ積雪が遅かったことから、11月、12月のスキー客は減少したが、気候の落ち着く1月、2月にはほぼ前年並みか、それを上回っている。
- ・3月は、前年比85%と東日本大震災の影響による観光客の減少が、顕著に見られる結果となっている。

(5) 市町村別 (入込客数、増加数グラフ)
○入込客数

市町村別観光入込客数

(単位：千人)



喜茂別町：中山峠スキー場の利用客の増、一時期の燃料費高騰によるマイカー移動の抑制からの回復により増加となった。

留寿都村：冬期は、海外からの観光客が好調であったことにより増加となった。

京極町：大型バスによる団体観光客や外国人観光客が多かったことにより増加となった。

小樽市：上期(4月～9月)は好調であったが、3月の東日本大震災や原子力発電所の事故による自粛ムードの高まり等により減少となった。

積丹町：週末の悪天候による天候不順などにより減少となった。

ニセコ町：団体旅行の減少、気象条件により紅葉期間が短かったこと、また3月の東日本大震災の影響により減少となった。